市民・職員参加による後期基本計画の振り返りセッション「事前セッション」会議録

テ ー マ：３　次代を育む文化・教育環境の創造
開催日時：平成 24 年 11 月 20 日（火）13 時 30 分～16 時 10 分
開催場所：松戸市役所　別館地下研修室
出 席 者：市民の参加 18 名、職員の参加 9 名

【会議内容】

■　オープニング

・今回の取り組みの背景や趣旨、全体像の確認

■　チェックイン

・「今の正直な気持ち」や「気になっていること」などの想いを共有

■　情報の共有

・松戸の強みと弱みを考えるデータ集に基づき、「基礎編」「政策編」を市の担当者より情報提供

■　感想・質問の共有

・図書館で分館が多いとなっているが、中身が大切。スペースが狭い。
・資料の作成で、何人にアンケート調査を行ったとかがわからない。
・市民一人当たりの担税力が、市川・柏市より人口が多いのに少ないのが不思議。
・子どもが目標をもって大きな夢を持てるようなことを話していただきたい。
・歴史や案内板など駅などにない。
・松戸に児童館が無いので東京に通っている人がいる。児童館など提供してほしい。
・乳幼児対策だけでなく、児童館などの対策も平行してやってほしい。

■　経験の共有

・松戸市の文化祭等のイベントに子どもの姿が少ない。親が子どもへ文化の話や機会を与えていないようだ。こういったことは、こどもの頃から身に付けていくことが大切に感じている。行政としても学校単位など触れる機会をつくるべきではないだろうか
・体験から感じていることは、小学校の総合学習支援についてかかわってきた中で、この機会をもっと頻会にやって欲しい。また、特色ある総合学習等の教育もその学校でしかないのでもったいない。
・体験から感じていることは孫が、中・高一貫校を目指して松戸市以外に行ってしまった。松戸にも中・高一貫校があるといい。
・カナダで育って感じることは、米国では誉める教育であり、多他国でもプラスを伸ばす。日本ではマイナスを目立たせるようだ。プラスを伸ばす教育が必要だし、教師においてもプラスを見る技術も必要だ。

・私の体験から思っていたよりも、協力者、自発的の市民は多くいて、思い（保存、活性化等）も強いと感じた。
・自分の住んでいる街への愛着を持てる様な環境が充実すると良い。
・私の体験から外で遊ぶ子が少なくなった。3.11 の影響もあるだろうが、親が過保護すぎる時代になった。他国では今も子どもにもっと体験させているようだ。そういった異文化も取り入れられるような国際的な松戸となって欲しい。
・小中学校の教育課程の中で，自らの考えを発言しあい，子どもの自主性，自発性を活か
せる場を工夫してほしい。
・防災対策において，独居老人への対策は進んでいるが，年少者の安全の確保に留意すべきと考える。保護者の多くが「松戸都民」という状況の中で，帰宅難民となった保護者を待つ子どもたちへの対策を急ぐべきだと考える。
・学校図書館に支所が不在ということ，管理上施錠しなければならない現状など，図書館教育推進の上で問題を感じる。学期に１回程度の非常勤の司書では不十分。子どもたちと本をつなげる工夫や手立てがほしい。
・市民団体への助成金について，継続性のあるものが少ない。福祉や子どもに係わるものは，サービス色が強く，長期間にわたるものが多い。結果が数値で現れるものを対称にしたり，一定期間に限られたりすると，活動の支障が出る。
・歴史，文化の継承を組織的に活動できる施設や設備整備を進める街づくりに活かすことができる
・子どもの発達に合わせた居場所作りを進めることで，小学校中学年からの社会性の発達に役立つと考える。
・本市には生涯学習センターがない。市民の活動を活性化するには，場所の提供は必要と考える。
・学校ごとの特色を感じない。市内小中学校の建物の作りは同じなのか。空き教室の有効利用を考えてほしい。
・空き教室の利用として，子どもたちが日常的に図書に触れ合う環境づくり（読書コーナー等）も考えられる。
・司書不在についても，学校の図書館教育に意欲的な保護者や地域住民を集めて研修をして，ボランティアを育成することも一案である。
・学校跡地利用の検討に参加をして，施設のあり方について考えさせられた。市民団体を育成するのなら，場所の確保や施設運営にも市民の参加や団体への委託なども考えるべきである。
・施設までの交通機関の確保として，コミュニティバスなどを整備する。施設利用が進むことで生涯学習の活性化が図られる。
・学校跡地利用で，複合施設として運営することにより空きなく無駄なく利用され，

効率化が図られる。運営を市民団体に任せることにより，コストダウンが期待できる。

・他市では，小学校単位でのスポーツやボランティア活動が充実している。学校を離れた地域主体のスポーツサークルの更なる充実と青少年対象のスポーツ大会の継続をお願いしたい。

・老人対象施設の増加は良いが，その中で老人が孤立化してしまっては意味がない。たとえば施設設置に伴い子ども対象施設の併設を義務づけるなど指導をすることで，子どもとの交流の場を確保することも考えてほしい。

・市民は，行政からのサービスを期待し求めるだけでなく，自らも責任を持つ意識改革が必要。市民の自覚を芽生えさせる努力をしたい。

・子どもの安全の見守り活動が組織されるのはよいが，日常的に死角のできない見守りができるような実効性のある活動を保証する工夫も必要。

・学童クラブの施設設備の環境は十分とはいえない。学校の敷地内利用の場合，行政上の手続きは難しいものがあると思うが，学校の施設利用が柔軟にできないものだろうか。

・多くの活動への提言はよいが，先ず大切なのは子どもの安全安心である。さらに，万一の場合，その事業を実施する市の職員や担当者が，法的責任が及ばないようにコンプライアンスを整備することも大切だ。

・中高生の居場所づくりの活動を協働事業で行っているなかで、子どもたちはネット等の情報が氾濫している中で、良い悪いに関係なくいろんな情報を得てしまい、振り回されている。そんな子ども達の環境を守ってあげなければならない。

・学校教育において、防犯の被害者や加害者にならないための知識や、人権、他国の文化、モラルなど生きていく上で必要な基本を教えて欲しい。

・地域で、世代交流事業を行っている。地域で子ども達を見られる、そして高齢者が孤独にならない、そんな街づくりが必要である。世代間交流をして、松戸が大きな家族のようになってほしい。

・第３子の保育料を無料にして、子育て世代を呼び、松戸市が繁栄する施策をお願いします。

・環境問題に関する協働事業を行っている。出前講座も行っている。子ども達は、スポンジが水を吸うように知識を吸収するのがよくわかる。子ども達に環境問題を教える機会を学校に協力して欲しい。

・竹とんぼの作り方や遊び方を子ども達に教える活動をしているが、市に協力を仰いだことも無い。自分が子ども達のためになると思っていることなので、まず自分が行動し、広めていくことだと考えて、市に何かしてほしいとか、NPO になって補助金をもらうとか考えたことが無い。

自信を持って、行動することだ。

・子ども達に農業の職場体験をさせる活動をしている。そのなかで、子ども達に将来の夢を尋ねても、目を輝かせて語る子はほとんどいない。どうせ叶わないと思っている。様々な理由があって、あきらめてしまうことが無いように、子ども達には平等にチャンスを与えて欲しい。例えば、市が費用負担するなどの施策をお願いしたい。そして、子どもたちが夢や目標を持てる教育をしてほしい。

・ポイ捨ての条例をつくるための支援活動をしてきた。しかし、条例ができてしまえば、それが本当に有効に活用されているのかわからない。条例を作ればそれでいいというものではない。

・竹とんぼを広めるのは、一人では限界がある。おやじの会やスクールパトロールなどの人たちに後継者になって欲しい。そうすれば、その方々も安全だけじゃなく、生涯教育にも関わることができる。これから、対象を絞って積極的に進めていきたい。

・自転車や歩行者の通行が難しい道路が多い。

・頭でっかちで、体験が少ない子どもが多い。

・地域と学校の間にある壁をどう無くすか。

・子ども関係の教室（生花、茶道等）を行う時に、費用等の支援（サポート）をしていただきたい。

・学校の空き教室の開放状況が分からない。また、空き教室の有効利用として学童クラブ、子育てスペース、高齢者のコミュニティースペースとして有効活用できると思う。

・子どもたちの週末の活動として、学校教育ではなく、地域の方々での社会教育を進めて行くとよいと思う。

・外国籍の子どもに対する日本語教育などは充実してきている。しかし、日本人が交流という意識ではなく、当然同じ地域に住んでいることから、共にこの地域で生きていくという意識が大切ではないか。

・重要文化財の使用方法について、同じ文化・芸術に使用するにも会場が使用可能なものとできないものがあり、疑問に思い見直しをしてはどうか。

・学校・家庭（保護者）・地域（町会等）が共同して子供たちの教育をしていくべきではないか。特に町会に若い方がおらず、高齢化していて学校とうまく協調が取れていない。

・家庭（保護者）も地域にいるので、もっと地域に参加をしていくべきではないか。保護者自身も子どもの育ち手が離れれば地域に残っているので、もっと地域に参加していくべき。

・現在学校での教育には、先生以外に様々な方が入っていて子どもの教育（サポート）を行っているが、地域の方が学校に入り学校（先生）と良い関係をもち、より良い提案（伝統文化など）をもっていくとより良い教育環境になるのでは。

・俗にモンスターペアレンツといわれている人は、学校や地域に愛着が無い方がなっ

ているのではないかと思う。また、地域と連携して学校運営（コミュニティスクール）を行っていけば、その様な方についても理解が得られ、愛着が湧きより良い関係になっていくのでは。

■ クロージング

・振り返りセッションのご案内（開催日：平成 25 年 1 月 12 日(土)）

■ チェックアウト

・本日の感想などの共有

以上